

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	ヨルダンにおける青少年の健全な育成
(2) 事業の必要性(背景)	(イ) 本申請事業は、2010 年 10 月より実施してきた複数年事業の第 2 期に当たる。第 1 期を通じては、裨益者の順調な獲得 (2011 年 7 月末付、当初計画に対して 134%達成)、並びに質問表調査においてクラスが有益であり、講師の教え方が適切であったと答えた生徒の割合がほぼ 100%に近づくなど、活動への高い満足度が確認できた。特に、当該期においては、コミュニティ参画プログラムに参加した青少年らの成長が目立った。具体的には、コミュニティ活動の一環として、センター及び近隣地区での奉仕活動(清掃、ボランティア、孤児院訪問など)並びにセンター運営への参与(登録受付、裨益者送迎用バスのアシスタントなど)が活発に行われ、リーダーシップスキルや自主性の伸長、チームワークを通じた相互理解の促進が見られた。さらに、それを目にした地域住民からの好意的意見及び活動への参加意思が確認でき始めた。一方で、家庭訪問を通じ、貧困地域に住む青少年、特に他国籍の青少年において、学校から中退したために、日中のほとんどを家で過ごしているケース、さらに、女子において、文化的背景及び家庭の事情から学校と家以外の行動を制限され、余暇や自由な時間を楽しむ時間も場所も限られているケースを把握、対象地区の青少年が閉塞感やフラストレーションを抱えていることを確認した。また、質問表調査や家庭訪問を通じ、国籍の異なる友人を作ることが期待通り進まなかったケースや、ヨルダン以外の出身地の青少年がなかなか居住コミュニティに馴染めずにいる現状を把握した。このことから、出身国・地域の異なる青少年間での他者理解の機会が未だ、十分ではないことが明らかとなった。さらに、現地提携機関であるヨルダン政府機関 Higher Council for Youth (HCY) 本部からは、地方のセンターにおける活動実施の要望が当団体へ寄せられるなど、地方における活動支援の必要性が明らかとなった。 (ロ) 以上を踏まえ、本申請事業では、貧困地域に住む青少年がフラストレーションを緩和させながら、かつ奉仕の精神や自主性・自立性をさらに発展及び確立できるよう、青少年の健全育成のための活動を継続して行う。特に、年長の青少年らを含めた地域住民らによるセンター運営への参与をさらに促進させるため、コミュニティ活動に比重を置く。また、国籍の壁を超えた相互理解がさらに促進するよう、第 1 期ユースプログラムで力を入れた自己表現及び他者受容のための活動をノンフォーマル教育コースに組み込み、裨益対象を拡大する。併せて、地方における青少年活動を活性化させるため、青少年活動に携わるユースセンター職員の意識及び能力向上研修を行う。特に、地方のセンターでは予算の制限といった状況下、活動が鈍化しやすい傾向にあるため、本研修を通じ、職員におけるモチベーション向上やノウハウの定着による青少年活動の活発化を目指す。本研修については、HCY 本部との密な連携のもと実施してゆく。

(3) 事業内容	(イ) <u>コミュニティ参画プログラム: 14~18 歳の青少年 40 名 (男女各 20 名)、保護者 60 名 (ワークショップ参加者 15 名×4 学期)</u> ・①週 5 回の活動日において、エドューケーターの指導の下、青少年らが奉仕活動の企画立案及び実施までの準備を主体的に行う。その後、孤児院や老人ホームへの訪問など、コミュニティにおける奉仕活動に出向く。その際、第 1 期にトレーニングを受けた年長の青少年が、エドューケーターのアシスタントとして活動を率先していく。エドューケーターについては、過去に教師経験がある者や、青少年が抱える問題への対処経歴を備える人材を雇う。 ②事業期間中 4 回、保護者を対象に、青少年が抱える問題や地域におけるユースセンターの役割について等をテーマにワークショップを開催する。これまで青少年の問題対処にあたってきた現地スタッフやエドューケーターが中心となって企画／運営を担い、地域住民らが青少年活動に参画する道筋を探っていく。その他、年長の青少年らや第 1 期で同種のワークショップに参加した保護者もアシスタントとして参加、センターにおける活動運営への積極的な参画を新規参加者にも広めていく。 (ロ) <u>ユースセンター職員研修: 地方センター及びアンマン・ユースセンターの職員 20 名</u> ・地方ユースセンター職員の青少年活動運営に対する意識及び能力の向上を目指し、地方センター職員対象の研修を実施する。地方の約 10 センターから各 1~2 名をアンマンに集め、2 泊 3 日の宿泊研修を実施する。青少年活動の分野で経験を有する外部講師と当団体スタッフを講師とし、青少年の指導方法や青少年活動の企画、立案及び実施のノウハウを指導する。また、研修には、モチベーション向上を目指したトレーニングを盛り込む。さらに、研修での学びを生かし、各センターが独自で毎年作成する行動計画の次年度版のトライアル作成も試みる。研修の成果は HCY 本部と当団体合同でモニタリング及びフォローアップを行う。なお、第 1 期の活動センターであったアンマン・ユースセンターの職員も研修に参加し、当団体撤退後の事業移管に備え、更なる能力向上を図る。 (ハ) <u>ノンフォーマル教育: 8~18 歳の青少年 720 名 (180 名×4 学期)</u> ・週 5 日、言語、スポーツ(女子 伝統舞踊含む)、演劇、音楽、美術、ストーリーライティングのクラスを開講。出来る限り、各クラスに様々な出身バックグラウンドを持つ生徒らを参加させる。また、第 1 期の内部研修でコミュニケーションスキルについてのトレーニングを受けた講師が各クラスのカリキュラム設計やクラス運営を担う。このことから、参加生徒らにおいて、新しい知識やスキルを習得するに止まらず、自己表現と他者受容を通じた相互理解促進も目指す。クラスの成果物である青少年らの作品(ストーリー、演奏の様子や劇の映像、美術作品等)は、第 1 期で立ち上げた専用 WEB サイト上で掲載、広く一般にその成果を発信してゆく。また、各学期の最後には保護者や地域住民へ向けたイベントを開催、クラスの成果を発表していく。
-----------------	---

(4) 持続発展性	本事業は、複数年事業(3年)として計画しており、当該事業は2年目に該当する。複数年事業終了後は、地域住民を巻き込みながらのHCYへの移管を目指している。具体的な展望としては、第2期コミュニティ参画プログラム下で、青少年を含めた地域住民の青少年活動運営への参画を強めていく。併せて、研修を通し、当団体が保持する青少年活動の企画／運営に関するノウハウをHCY管轄のユースセンターと共有・定着させていく。その間、HCY職員のモチベーション向上も目指す。第3期では、研修で得た成果を基に、HCY職員が当団体のノウハウを取り入れながら、青少年活動をより活発に継続して行っていく。その際、第3期までに育った青少年や他地域住民もセンターでの青少年活動運営に関わっていくことを目指す。
(5) 期待される成果と成果を測る指標	期待される効果は、下記指標に基づき、可能な限り定量的・客観的に把握していく。 (イ) <u>青少年活動に対する地域住民の理解促進及び参画</u>： 青少年らが奉仕活動へ、保護者がワークショップへ、継続して参加することで、地域住民における青少年活動への理解並びに企画・運営への参画意識がさらに強まる。 [指標]：青少年の企画による奉仕活動実施回数、青少年活動へ理解が深まった保護者の割合、年長青少年及び保護者を含めた地域住民の中からユースセンターの運営に関わるようになる数 [確認方法]：裨益者への質問表調査、家庭訪問を通じた聞き取り調査、観察記録 (ロ) <u>青少年活動におけるユースセンター職員の意識及び能力の向上</u>： 研修を通じ、ユースセンター職員が青少年特有の問題の解決や彼らを取り巻く環境の改善へより積極的になると共に、青少年活動実施のノウハウを新たに獲得する。 [指標]：青少年活動運営に関わる新しい知識やスキルを得た割合、各地方ユースセンターが作成する次年度行動計画が過去計画と比べ、内容に向上がみられる [確認方法]：HCY本部及びKnKによるモニタリング及び職員への質問表調査 (ハ) <u>青少年への教育効果</u>： 青少年の知識・スキル向上及び意識や行動の面で肯定的な変化が見られる。また、異なる出身背景を持つ青少年らが自己表現活動に参加し、直の交流や対話を通して、他者受容や相互理解を深める。 [指標]：マナー向上や積極性が見られるなど肯定的な言動を示した青少年の割合、新しい知識やスキルが向上した青少年の割合、異なる国籍や出身地の友人を持つようになった青少年の割合 [確認方法]：現地スタッフによる月例報告書、裨益者への質問表 (イ)～(ハ)の裨益者数： <u>直接裨益者 840名</u> (コミュニティ参画プログラム100名、青少年活動活性化のための職員研修20名、ノンフォーマル教育720名) <u>間接裨益者 約2040名</u>(地方センター利用青少年500名、地域住民(保護者含む)1520名、現地政府関係者20名)